

## 335 胃原発 adenoacanthoma の 2 症例

聖マリアンナ医科大学第1外科

風間厚宏, 生田目公夫, 浜口 実, 得平貞彦  
福田 護, 吉田紘一, 金杉和男, 山口 晋  
片場嘉明, 出月康夫, 渡辺 弘

同第2病理

牛込新一郎

我々は胃原発 adenoacanthoma の 2 症例を経験したので報告します。症例1: 47才, 女性。主訴: 嚥下障害, 全身倦怠感。家族歴, 既往歴に特記すべき事なし。現病歴: 昭和50年2月頃より軽度の嚥下障害, 全身倦怠感出現。同年11月上旬頃より嚥下障害, 全身倦怠感増強したため11月28日某病院入院。貧血にて輸血800ml施行後の胃透視にて異常を指摘され, 12月15日第1外科に入院。腹部単純レントゲン写真で左上腹部領域に小斑点状陰影があり, 胃透視所見で胃角より食道への浸潤を示す Borr IV 型胃癌。手術所見では  $P_0 H_0 N_3 S_3$ , stage IV。病理組織学的所見では粘液産生が著しい膠様癌の像を示し, 粘液結節の中に著明な石灰沈着が見られ, 又管状腺癌と扁平上皮癌が混在する adenoacanthoma の所見であった。

症例2: 57才, 女性。主訴: 食欲不振, 体重減少。家族歴, 既往歴に特記すべき事なし。現病歴: 昭和50年7月頃より食欲不振, 体重減少出現したため某医受診。胃透視にて異常を指摘され, 同年12月22日第1外科入院。精査にて胃前庭部の Borr II 型胃癌。手術所見では  $P_0 H_0 N_1 S_2$ , stage III。病理組織学的所見では adenoacanthoma の像を認めた。

症例1は著明な石灰沈着を認めた膠様癌に adenoacanthoma を認めた興味ある症例であり, 症例2は管状腺癌が主体であるも一部に扁平上皮配列を示す所見がみられた。今回我々は adenoacanthoma の 2 症例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

## 336 食道胃接合部近傍の早期癌症例の検討

長崎大学第一外科 (米大分医科大学外科)

小武康徳, 内田雄三(※), 橋本芳徳, 野川辰彦  
高木敏彦, 橋本茂廣, 藤井良介, 石川喜久,  
石井俊世, 下山孝俊, 三浦敏夫, 辻 泰邦

近年早期胃癌の診断技術は向上して来たが, 胃上部の早期胃癌は少く, 食道胃接合部近傍の早期胃癌は稀れである。昭和44年より11年間に教室で切除された胃癌総数は809例で, 胃上部癌は145例である。胃上部癌をさらにその腫瘍の中心部が食道胃接合線より2cm以内にある接合部癌と, それ以外のC領域癌(C-癌)とに分類すると, 接合部癌は48例, C-癌は97例である。同期間中の早期胃癌総数は139例で, 胃上部のものは8例であり, 接合部早期癌は3例(3個), C-早期癌は5例(5個), 胃中部ならびに下部の早期癌(MA-早期癌)は131例(134個)である。肉眼型では, 接合部早期癌ではIIa2個, IIc+III1個, C-早期癌ではIIc+III3個, IIc1個, IIc+IIa1個で, MA-早期癌134例については, IIc(65個)またはIIcとの組合せの型(51個)が多い。深達度では, 接合部早期癌ならびにC-早期癌では, 全例がsmであり, MA-早期癌では, 134個中smが84個, mが58個である。リンパ節転移は, 接合部早期癌ならびにC-早期癌は全例 $n_0$ であるが, MA-早期癌では131例中19例(14.5%)が $n(+)$ である。脈管侵襲の程度は, 接合部早期癌では全例が $ly_0$ であるが, C-早期癌では, 5例中3例が $ly(+)$ である。MA-早期癌では, 131個中48個が $ly(+)$ である。INFをsm早期癌についてみると, 接合部早期癌では $\alpha$ ,  $\beta$ ,  $\gamma$ が各1個であり, C-早期癌では,  $\alpha$ 1,  $\beta$ 3,  $\gamma$ 1個である。MA-早期癌では,  $\alpha$ 27,  $\beta$ 39,  $\gamma$ 11個である。組織型は, 接合部早期癌では高分化型腺癌2個, 低分化型腺癌1個, C-早期癌では高分化型腺癌3個, 低分化型腺癌2個である。MA-早期癌では高分化型腺癌77個, 低分化型腺癌57個である。

症例1: 61才男。食道胃接合部にまたがる $1.8 \times 1.5$  cm大の隆起性病変(I型)。組織型は高分化型腺癌で, 深達度はsm。INF  $\beta$ ,  $ly_0$ ,  $v_0$ ,  $n_0$

症例2: 64才男。食道胃接合線に接して噴門小彎を中心として $0.5 \times 0.5$  cm大の陥凹性病変(IIc+III)。その中心部は食道胃接合線より1.8 cm胃側であつた。組織型は低分化型腺癌で, 深達度はsm。INF  $\gamma$ ,  $ly_0$ ,  $v_0$ ,  $n_0$

症例3: 57才男。食道下端, 小彎側に $1.7 \times 1.5$  cm大の隆起性病変が認められ, 表面は食道粘膜でおおわれている。腫瘍の中心部は食道胃接合線より口側に1 cm。組織型は高分化型腺癌で深達度はsm。INF  $\alpha$ ,  $ly_0$ ,  $v_0$ ,  $n_0$

食道胃接合部に発生した興味ある早期癌の症例を示し, その特徴について検討する。